自然・文化・歴史に光を当てる上下流域の可能性

—秩父 - 東京間：荒川流域連携に着目して—

平成 29 年 2 月 23 日
大正大学地域創生学部専任講師　出川　真也
文学部 3 年　高橋　咲紀

１、地域概要と現状

埼玉県秩父市大滝地区　荒川の最上流地域　人口約 800 人。主な産業は、林業・鉱業・農業。

現在では、林業の衰退や通過交通の増加による滞留者減少、民宿利用者の減少・経営者の高齢化による廃業などが目立つ。

また、小・中学校の閉校により、子ども達が減少、働く場が少なく、雇用の創出が課題。

秩父市大滝地区の深い山々

２、活動目的

地域活性の活動に協力し、上流域（秩父）と下流域（都心）の連携による地域再生を目指した。以下の４観点に着目し、上下流域連携・地域活性化に資する交流メニューを検討した。

①地場産業育成　　②食文化　　③自然体験学習　　④歴史

３、実施内容

⑴大滝地区に関する文献・ヒアリング調査
⑵東京農業大学との連携によるトンネル整備作業
⑶マメガキ調査
⑷地場野菜調査、地元住民からの聞き取り調査

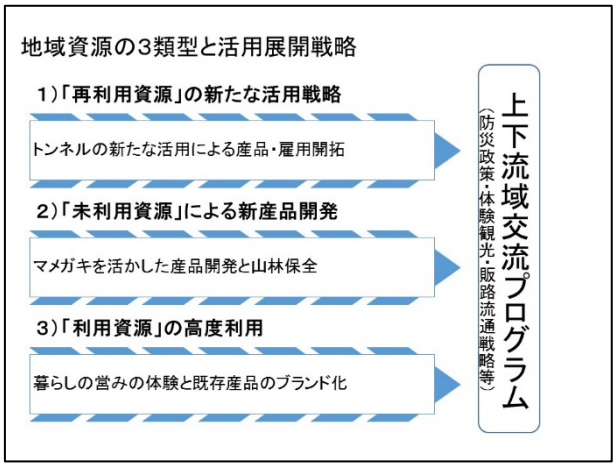
トンネル作業→

マメガキ調査←

地元住民取材→

４、結果と考察

未利用資源などが多く存在。これらをどう活用していくかが今後の活動の鍵になると考えられる。また、さまざまな作業や活動をしていくうえで、若い世代の力をどう誘引できるかが重要になると考えられる。



５、今後の展望と提案

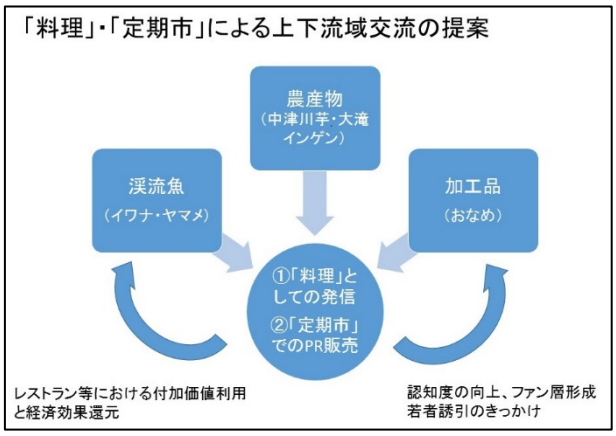
⑴地場産業育成

1)再利用資源の活用

トンネル→外の天気や気温の影響を受けないため貯蔵庫として活用

2)未利用資源の活用例

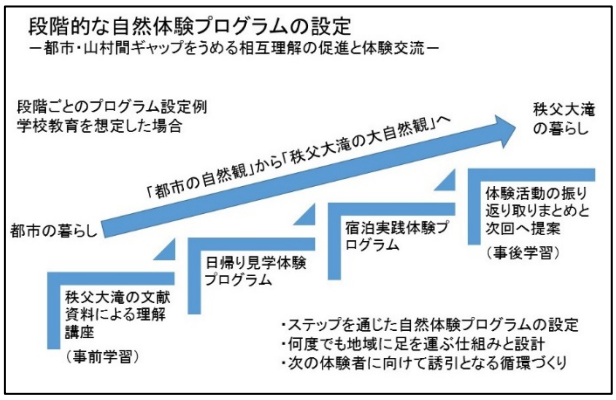
マメガキ→生け花や柿渋として販売



⑵食文化

1)それぞれ名産を使用した料理で交流。都市部のスーパーマーケット、レストランなどに提供

2)大正大学の『朝市』で名産品を売り込む

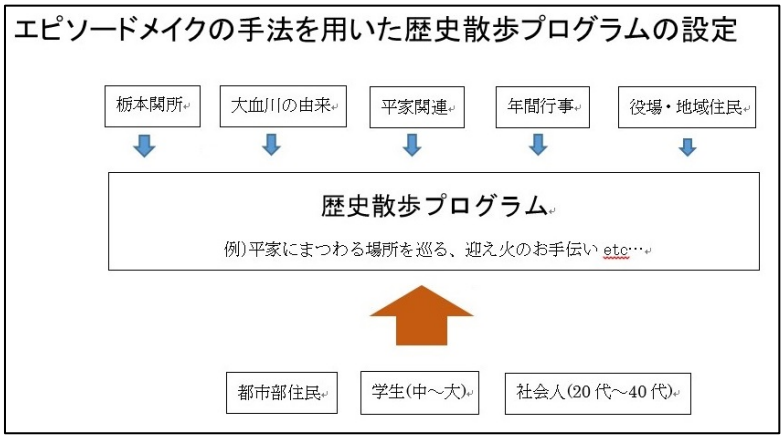


⑶自然体験

<例>自然体験を段階的に分けて実行するプログラム

対象：都市部在住の小・中学生

内容：大滝の文献調査、民泊プログラム

⑷歴史文化

栃本関所、大血川の名前の由来となった平家の伝説などを利用してストーリー化。歴史散歩などのプログラムに活用(エピソードメイクの手法導入)